

JCAS地域研究コンソーシアム 第二回墓場セミナー 墓場から覗く人間世界

場所:総合地球環境学研究所(京都)

日時:2012年2月4日

内容:

「墓場セミナー」第二弾となる今回は、前回の墓石のもつマテリアリティをめぐる学際的研究の模索を引き継ぎ、マテリアリティと人間世界のつながりを、墓場というテクスト空間から読み解くという試みを行った。発表者は5名、参加者は26名。

発表者:

- ・中村大(総合地球環境学研究所、考古学)
「墓の格差は何を意味するのか——縄文時代の環状列石を事例に」
- ・乾睦子(国土館大学理工学部、地質学・変成岩岩石学)
「石は世につれー日本の石材産業の歴史」
- ・越智郁乃(広島大学大学院総合科学研究科、人類学)
「墓に集う、墓に遊ぶー現代沖縄墓場考」
- ・鈴木洋平(東京大学大学院、民俗学)
「骨が生み出す墓ー台湾における死者の骨と墓の立地」
- ・里見龍樹(東京大学文化人類学研究室博士課程、人類学)
「『海の上の墓地』の歴史とマテリアリティーソロモン諸島マライタ島北部ラウ語地域のフィールドから」

所感:

それぞれの発表者が、自身の研究分野及びフィールドから事例を紹介するのみならず、その事例から読み解くことのできる人間社会の諸側面(格差、産業形態、コミュニケーション、歴史認識など)を提示したことで、抽象化されたレベルにおける異分野・異地域間の対話が可能になった。そこでは、墓石や墓場を、人間社会における一つのアクターとして捉え、そのマテリアリティに縛られながらも人々のネットワークが生成し維持されていく場として読み解いていくことの重要性が確認された。フロアから得られた貴重な情報や指摘も、本研究会にける議論を深めていくうえで重要なものとなった。



ポスター



発表者の様子



フロアの様子